

らしてとなると、中途半端な金額となるかもしれない。また、枚数変更を行うと製造業者にも影響が出るかもしれないので、難しいだろう。

(会長)

説明の中で12月議会に上げるとのことだが、手数料が改定されるのはいつからの予定なのか？

(事務局)

令和8年4月1日の予定である。

(2) プラスチック資源一括回収事業について

(事務局) <資料 5～10ページについて説明>

(委員)

資料8ページの下段、真ん中の写真はこういったものか？

(事務局)

これは、荷物の梱包等に使われているPPバンドであり、長さが50cmを超えているので今回禁忌品として掲載している。

(委員)

丸めて小さくしてもダメなのか？

(事務局)

一辺が50cmを超えるものは、プラスチック資源一括回収としてだけでなく、可燃ごみでも禁止されている。

(委員)

市民にルールが伝わっていない部分もあると思う、周知にしっかりと加えてほしい。

(会長)

今回の実証事業の結果を踏まえ令和9年3月の事業開始までにしっかりと周知をしていただくようお願いします。

(委員)

施設の工事とはどのような工事を行うのか？

(事務局)

まず、一括回収にともない硬質プラスチックが入ってくるため、破袋機の更新。

また火災防止のため、リチウムイオン電池等の発火危険物の除去をする磁選機の設置をする。更に、磁選機で除去しきれずに万が一発火したときのためスプリンクラー等の消火設備を設置する三点の工事を行う。

(委員)

工事完了後は、今回の実証事業で混入していたような禁忌品はすべて除去できるのか？

(事務局)

磁選機による選別と現在同様に手選別による除去で対応を行う。

(委員)

クリーンセンター内にて選別をするため禁忌品が混ざっていてもよいとの考えか？それとも、市民に分別をしっかりとお願いしたいと考えているのか？

(事務局)

排出する方の分別が一番大事であると考えており、設備の工事は、万が一に対応するためである。

(会長)

搬入された製品プラスチックは破碎をするのか？おもちゃなどプラスチックと金属が混在した製品も破碎をするのであればそのまま搬入できるのではないか？

(事務局)

設備改修工事後も破碎は行わない、破袋のみとなる。防府市では、容リ協というところに引き渡すが、容リ協の基準が破碎しないこととなっている。

(会長)

破碎しないのであれば、プラスチック製品の中には金属部品等が入っているものが多くあるので、禁忌品が混入する可能性がかなり高いかもしれない。

(事務局)

実証事業で混入していたような禁忌品が多く出るかもしれない。しっかりと周知を行い分別をお願いしたい。

(委員)

洗濯ばさみ等でも金属部品がついている、排出者が少し労力をかければ分けることができるので、排出者がやるべきである。周知、啓発をしっかりとすれば、市民の意識に残り、分別する人が増えるのではないだろうか。啓発が大事である。

(会長)

分別できれば、分別。できない場合は、可燃ごみでよいと言ってしまうと、誰し

もが安易な方法を選んでしまう。これから、できるだけ市民の方が分別できるよう事業開始までに周知の方法を考えてほしい。

(3) ごみ処理基本計画について

(事務局) <資料 11～20ページについて説明>

資料18ページ III新たに行う取り組み

- ・プラスチック資源一括回収
- ・防府市指定ごみ袋として使えるレジ袋の作製

(事務局)

新たに行う取り組みとして、防府市指定ごみ袋として使えるレジ袋の作製を考えている。これは、買い物された人が使用するレジ袋を新たに作成する袋に置き換えることで、ただ焼却されるプラスチックごみの削減を図るものである。地場のスーパーに声掛けをしたところ、(株)丸久から協力いただける旨の回答を得られたため、まずは、(株)丸久に協力をいただきスタートし、ゆくゆくは防府市内全域に広げていきたいと考えているものである。

(委員)

マイバッグ等を使わずレジ袋を購入する人は、常に一定数おり意識が変わらない。そのような人がこの袋を使用すれば、従前のレジ袋削減になるし、意識の変化につながるかもしれない取り組みである。

(委員)

協力できる部分は協力していきたいと考えている。

(事務局)

特に意見はないようであるため、進めていきたいと思う。

(委員)

自治体によっては、水気を含んだ家庭ごみと一般ごみを分けて出して、家庭ごみは発酵させて肥料にするなどしているようだが、防府ではどうか？また、草木等のごみも堆肥にしているところもあるようだが、防府ではどうか？

(事務局)

防府市では、すでに可燃ごみの内、生ごみについては、発酵させてバイオガスを発生させて、より効率の良い焼却、発電を行っている。もう一点の剪定木等の堆肥化については、現在そのような設備はなく、行っていない。現時点では、そのような設備を造る予定はない。

(会長)

剪定木や雑草などは可燃ごみの中でもかなりの量を占めていると思うが、堆肥化

をするにはかなりの設備投資が必要になると聞く。なかなか難しいかと思う。

(委員)

小型家電を処分する際に市の設置するボックスを利用しているが、リチウムイオン電池を含む製品を入れる際に高さがあるので、衝撃で発火につながらないか心配である。他市では、通常の家電とリチウムイオン電池の製品のボックスが別の市もあるが、防府市は別にしないのか？また、高さはもう少し低くならないか？

(事務局)

モバイルバッテリー等を入れる際は、膨張したり、傷がついているものはボックスに入れずにクリーンセンターへ直接持ち込んでいただくようお願いしている。

ボックスの形状については、小型家電の回収を始めた際から全市同一のボックスを使用している。いただいた意見を踏まえ検討したいと思う。

(会長)

自分の地区では、自主搬入の際に持ってきてもよいとしている。

(委員)

資料13, 14ページのアンケート結果を見る限り、R2からR7の5年間で市民の意識が低下しているように見える。ごみに対する関心は高まってもよさそうであるのに下がっているのはなぜなのか？ごみ問題に対する意識を高めるには、子どもの時からしっかりと学校でも家庭でも教育する必要があると思う。

(会長)

このアンケート結果を見る限り、意識低下しているように見える。委員の皆様も各所属団体での会議等で啓発していただきたい。

(委員)

自治会で出る話ですが、瓶の排出に困っているという話をよく聞く。瓶の排出できる場所を増やすことは難しいのか？スーパーなどでもペットボトルなどの回収をしているが、びんもそのように回収できる場所があるとありがたい。

(委員)

丸久においても瓶をリサイクルで回収してほしいという話はよく聞く。スーパーでも集めたいが、リサイクル搬出ができない。現在回収しているのが、トレイ、ペットボトル、缶などである。瓶を排出できる場所が増えるとよいと思う。

アンケートについて、13ページを見ると40歳代以上から数がぐんと増えているが、年代別に配布対象数を変えたのか、平均的に配布したのか教えてほしい。

(事務局)

アンケートの年代別の件ですが、配布対象数は全市民を地区別、年代別の割合で抽出して配布したため、例えば70歳以上の数が多いのは配布対象者数も多いからとなっている。更に回答率も年代が高い方が高くなっている。

(委員)

アンケートを行うにあたっては、全年代均等数を対象とする方がよいのではないか？

(事務局)

今回は、令和2年度にアンケートを実施した際と同様の抽出方法とした。今後アンケートを行う際は、対象者の抽出方法についてどのようなやり方がよいか、また検討したいと思う。

(事務局)

防府市においても瓶の搬出機会が少なく困っているとの声は聞いており、市でも検討をした。回収事業者への協力も検討したが、色別の分別や割れる危険などもあり瓶の回収は難しいとの回答であった。その中で、クリーンセンターでは月曜から金曜の搬入に加え、令和6年から日曜日の搬入を開始し、更に令和7年4月から土曜、祝日も年末年始を除き、搬入ができるようにしている。

(委員)

資料17ページに目標値と実績値が大きく乖離とあるが、その理由は？

(事務局)

令和3年度につくられた計画の数値と大きく乖離しているものがある、特にリサイクル率は乖離が大きい。令和3年の計画策定時には、廃棄物量が増加していくとの予測から廃棄物に含まれる資源物も増加すると予測していたが、現在では、廃棄物量、資源物ともに減少傾向にあることが理由の一つである。今回の見直しでは、5年間の実績をもとに現在の状況に即した推計値を算出する。その上で現在の目標値が現実にはふさわしい数字なのか見直しをおこなう。

5 閉会